

# 平成 29 年度 事業計画



特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺  
ショートステイ オレンジタウン笠寺  
オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター

## 1. 基本方針

### (1) 地域に根ざし、地域包括ケアシステムの一端を担う

重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができるよう、地域社会と連携して町づくりに参画していく。

### (2) ICF モデルの視点に立ったケアの提供

利用者の生活歴や生活機能の把握に努め、「している“活動”」の向上を目指し、結果として「その方らしい生活」を提供していく。

## 2. 主な取り組み課題

### (1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

利用者一人ひとりが、自分らしく尊厳を重視した生活が営めるよう、自立支援を観点にしたケアプランを多職種協働で作成し、それに基づいたケアが標準的に誰でも行えるよう質向上を図る。

### (2) 社会福祉法人制度改革への対応

#### ① 経営組織のガバナンス強化

平成 28 年度までに必要な対応は完了しているが、引き続き国の動向を注視し、遅滞なく必要な対応を行う。

#### ② 事業運営の透明性の向上

主にホームページを活用して情報発信を行う。ステークホルダーのニーズに応え得る情報をスピーディーに発信できるよう、ホームページのリニューアルを検討する。

#### ③ 財務規律の強化

適正かつ公正な支出管理、内部監査等を通じて、コンプライアンス遵守を徹底する。

#### ④ 地域における公益的な取り組みを実施する責務

なごや・よりどころサポート事業に参加する。また地域のサロンとして当施設を活用いただけるよう取り組みを開始する。

### (3) 新しい施設の整備

名古屋市の平成 29 年度整備事業に採択されたユニット型特別養護老人ホーム（定員 80 名）について、着工に向けて必要な準備を行う。

**(4) 組織文化の醸成（人材確保と定着）**

就労人口が減少し、介護人材の不足が深刻化する中で、新施設の開設も見据えた必要な人材の確保ができるよう、各種就職フェアへの参加、教育機関との連携など積極的なリクルート活動を行う。

また研修内容の充実、人材育成のシステム化、キャリア形成の可視化に取り組み、結果として職員が「善常会で働く意味」を感じられる組織文化の醸成を目指す。

**(5) 地域との共生に向けた取り組み**

サロンの開設、認知症カフェの拡充をはじめ、地域の方々が困ったときに相談できる場所、気軽に立ち寄れる場所となれるよう、引き続き関係機関との連携に取り組む。また学区の行事や地域のサロン等に専門職がアウトリーチできるようPRを行う。

**(6) 災害対策**

震災等の大規模災害時にも事業継続ができるよう、事業継続計画（BCP）の作成に取り組む。同時に災害時、地域において必要な協力ができるよう、津波避難ビルの登録、地域防災協力事業所の登録を行う。

またそれらの実行性を高めるべく、非常用電源の設置、井戸の掘削等の検討を行い、災害に強い施設を目指す。

**(7) 平成30年度介護報酬改正への対応**

来春に予定されている介護報酬改正に対し、地域医療構想や地域包括ケアの動向を注視し、情報収集に努め、新制度の正しい理解、適切な施設運営が継続できるよう準備する。

### 3. 実施する事業

#### (1) 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺（定員 80 名）

開設 2 年目となる平成 29 年度は、9 月より福祉医療機構からの借入金の元本返済も始まることから、財務基盤の安定を図るためにも、99%の稼働率（年間延べ利用者数の見込み 28,908 人）で計画する。

##### ① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

- ・全老健版ケアマネジメント方式 R 4 システムの導入

入居者の生活歴、介護に対するご本人、ご家族の思いを共有できるようアセスメントシステムの見直しを行う。

- ・職員間の情報共有、ケア方法の統一

ユニットケアでは業務の中で職員が一同に会する機会が少ないため、ユニットやフロア単位での会議の定例化、委員会活動の充実により、情報共有の徹底、ケア方法の統一を図るとともに、ケアの質向上を目指す。

##### ② 人材確保と定着

- ・研修体系、研修計画の策定

新任者、2 年目、リーダー等、階層別の研修が実施できるよう、研修体系、研修計画の策定を急ぐ。外部研修に積極的に参加させ、伝達講習などで学習内容の共有を図る。

- ・メンター制度の導入

新任者（特に新卒者）が組織に馴染み、定着できるようメンター制度を導入する。同時に先輩職員の気づきや学習にもつなげたい。

- ・ノーリフトケアへの取り組み

職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフトケアに取り組む。

スライディングシート、リフト等を活用できるよう研修を実施し、入居者にも職員にも負担の少ないケアを実践する。またその他の機器の導入についても調査、検討する。

##### ③ 地域社会との共生

- ・認知症カフェの拡充

平成 28 年度、レクリエーションの位置づけで試行したオレンジカフェ笠寺を認知症カフェとして実施できるよう拡充を図る。

##### ④ 災害対策

- ・災害用備品の購入

ヘルメット、防災用ラジオ、ランタンなど必要備品に購入を行う。

- ・災害時連絡カードの作成

災害時、入居者の家族や関係者のどなたとどのように連絡をとるか、どのような対応を希望されるか、予めカードを作成して準備する。

⑤ 平成 30 年度介護報酬改正への対応

- ・情報収集と対応の検討

国の動向を注視し、情報収集に努め、適正運営できるよう必要な対応をする。

(2) ショートステイ オレンジタウン笠寺 (定員 10 名)

在宅での暮らしを支える社会資源として、極力有効に活用いただけるよう、原則として長期間のショートステイの受入れは行わず、真の在宅支援ができるよう運営していく。そのためにも 88%の稼働率 (年間延べ利用者数の見込み 3,221 人) で計画する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

- ・個別機能訓練の充実

リハビリ専門職を配置している強みを生かし、ショートステイ利用中に ADL を維持する、むしろ向上できる個別機能訓練を実践している。

リハビリ専門職のみならず、利用者に関わる全職種が「している“活動”」を意識し、当ショートステイの強みとしていく。

② ～⑤ 特別養護老人ホームと同様とする。

(3) オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター (定員 20 名)

上半期中に事業所全体で 20 名の稼働を計画している。下半期は定員を 25 名に増員し、年間の平均稼働は 1 日あたり 19.7 名 (年間延べ利用者数の見込み 6,129 人 (総合事業を含む)) で計画する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

- ・在宅生活の継続ができるよう「している“活動”」に着目したサービスの提供  
デイサービスを利用することで、家族のレスパイトだけでなく、利用者本人の生活機能の維持、向上、社会参加につながるサービスを提供する。

- ・名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② ～⑤ 特別養護老人ホームと同様とする。